

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020070

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	森づくり循環促進事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町森林組合	関係課	#N/A	
事業指標	森づくりのサイクルの維持		#N/A	
事業目標	造林面積 250ha	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	人工林の主伐、天然林伐採跡地への人工造林に対する助成	人工造林 50ha	人工造林 50ha	人工造林 50ha	人工造林 50ha	人工造林 50ha
	事業費(千円)	6,160	1,232	1,232	1,232	1,232
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	6,160	1,232	1,232	1,232	1,232	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,782	917	865	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	1,782	917	865			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 人工造林 31.35ha	(実施内容等) 人工造林 30.24ha	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	人工造林 50ha	人工造林 50ha	人工造林 50ha	人工造林 50ha
		年度達成率	74%	70%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	15%	29%	29%	29%
	事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆			

事業名	森づくり循環促進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	造林面積		
【抱える課題やニーズは】	無秩序な伐採から伐採跡地の発生が懸念される。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	森林の荒廃や伐採跡地の発生を防ぎ、適切な森林の更新を促進する。		① 造林実施面積÷造林計画面積	目標年度	平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	収穫時期を向かえた森林の伐採から跡地造林という森づくりのサイクルの維持が図られることになり、地域林業の振興、活性化に寄与する。			目標値	50.00 ha
			実績値	30.24 ha	
			達成度	60.5 %	
		②	目標年度	平成26年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	#DIV/0! %	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①森林所有者への事業費補助	森林環境保全整備事業実施要領に基づき補助対象とされた造林事業のうち、森林組合に委託して行った事業に対して補助。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林所有者の森林施業に対する意欲の維持と伐採跡地の解消を図るべく、森林の荒廃を防ぐために適切な森林の更新を促進し、北海道らしい豊かな山づくりを推進する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	民有林の森林整備が促進され、地域林業の振興が図られるとともに、森林の有する様々な機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	しかし、森林所有者の理解を得られず、実施面積が目標に達しなかったことから、今後、さらに目標達成に向けた森林所有者への働きかけが必要である。
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	公共造林補助事業の対象となった造林に対する補助であり、北海道の標準単価が適用されて事業が実施されるので、事業コストは妥当である。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	また、必要最低限の助成で事業推進が図られるように努めている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	対象となる事業を実施した森林所有者、全てを対象としている。また、森林所有者も町の要領に基づき負担している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>B</b>		
森林所有者の負担軽減を図るとともに森林施業を促進し、公益的機能を持つ森林を育成する事業であることから、目標達成に向け森林所有者へ働きかけつつ、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
造林施業が推進されることで、本町の林業生産力の向上に繋がるとともに、環境の保全が図られるので、継続して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
  - 終了 ○休止 ○廃止